

居住環境の妊婦に及ぼす健康影響について

東海大学医学部地域保健学

逢坂 文夫

要約： 流産割合を、各交絡因子（出産状況、居住期間、居住形態、結婚年齢、初回妊娠年齢、第一子出生年齢、妊娠確認前後における妊婦の喫煙および飲酒習慣や配偶者の喫煙習慣、外出回数、相談者、1人当りの部屋数）において検討した。その結果、居住階の上昇に伴い流産割合が、一戸建て住宅：8.2%、集合住宅：7.6%、集合住宅の1-2階：6.8%、3-5階：5.6%、6階以上：24.2%（6-9階：18.8%、10階以上：38.9%）、合計：7.7%であり、前報告に比べ、より顕著な値を示した。さらに、各交絡因子の影響も認められた。

見出し語： 出産状況、居住期間、居住形態、結婚年齢、初回妊娠年齢、第一子出生年齢、妊娠確認前後における妊婦の喫煙および飲酒習慣や配偶者の喫煙習慣、外出回数、相談者、1人当りの部屋数

〔目的〕

近年、居住環境の変移に伴い種々の健康影響が顕在化してきている。最近では、都市部に限らず居住形態が高層化してきており、その影響も表面化している。今年度は、対象者を増加し、昨年度に引き続き流産に対する影響因子の検討を行った。

〔対象および方法〕

調査は、1993年9月から横浜市保土ヶ谷区、港南区および戸塚区の各保健所管内における4ヶ月健診を受けた母親（第1子のみを出生した母親）を対象に質問票を保健所の職員を通じて配布し、

帰宅後、記入の上、返信用封筒に入れポストに投函してもらった。配布数は、3000部、回収数は、1995年2月1日現在、1605部（回収率：53.5%）であった。なお、解析対象者は、居住期間が1年未満および有職者を除いた1196名とした。

検討項目は、出産状況、居住期間、居住形態、結婚年齢、初回妊娠年齢、第1子出生年齢、妊娠確認前後における妊婦の喫煙習慣、飲酒習慣、配偶者の喫煙習慣や外出回数および相談者、1人当りの部屋数とした。

東海大学医学部地域保健学

Department of Community Health School of Medicine Tokai University

[結果および考察]

1. 居住期間別流産割合は、居住期間が長くなる

に伴い有意に増加し(図1)、6階以上がより顕著であった(図2)。居住形態別居住期間割合は、図3. 4に示す。

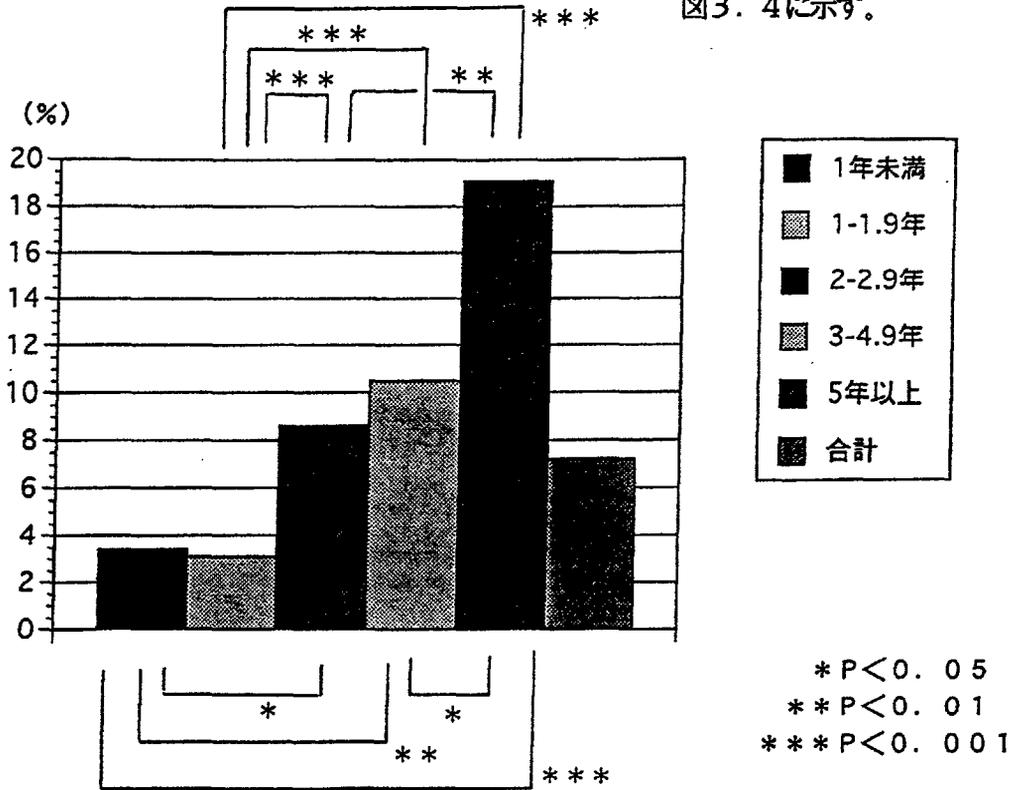


図1 居住期間別流産割合

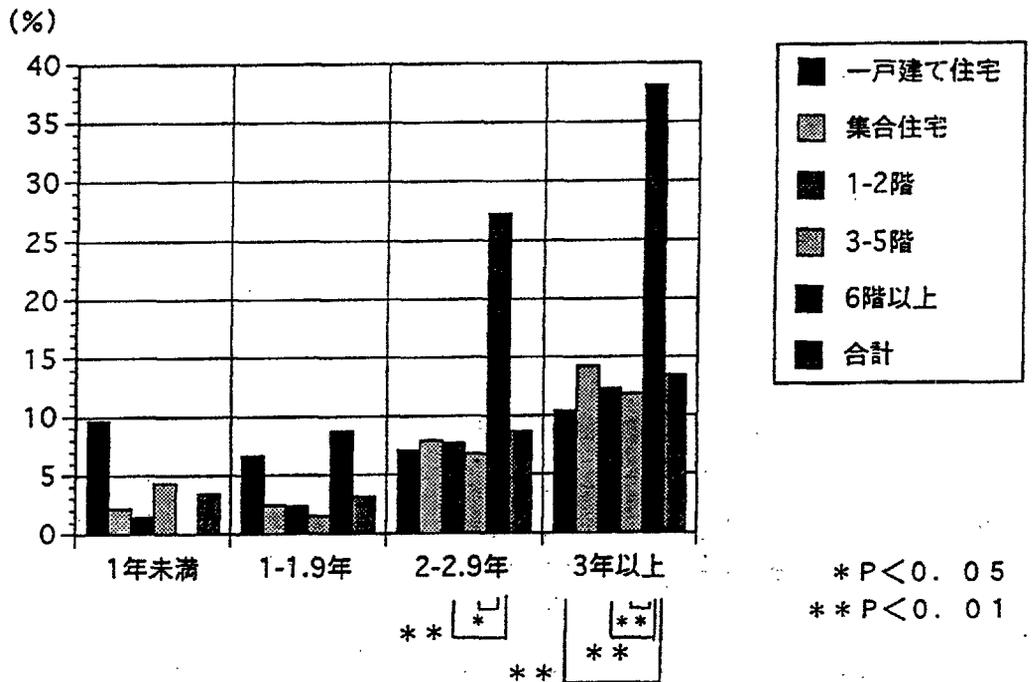


図2 居住形態および居住期間別流産割合

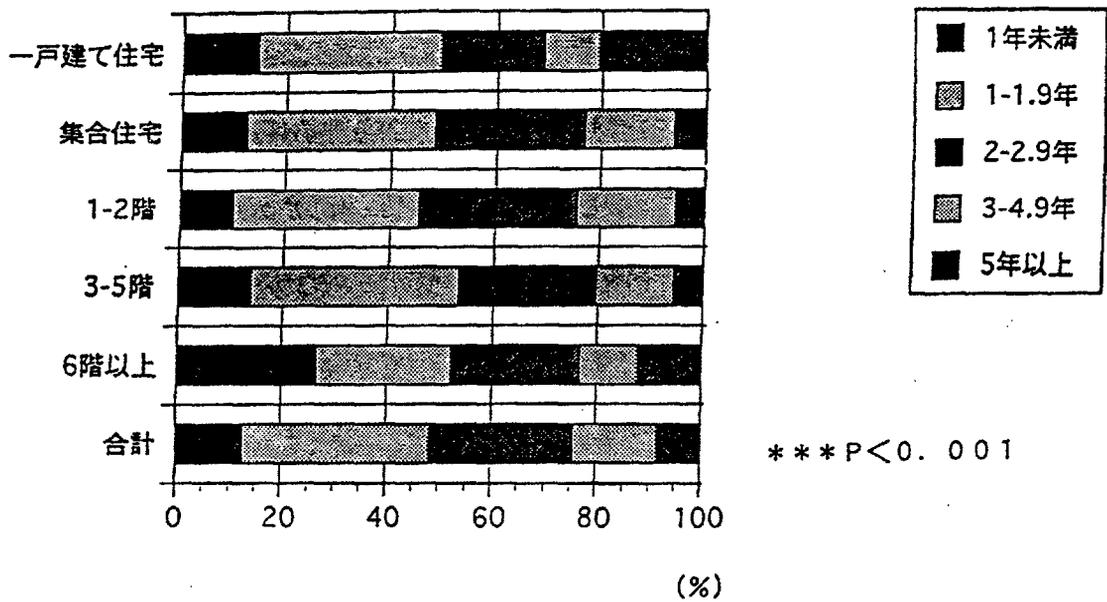


図3 居住形態別居住期間割合

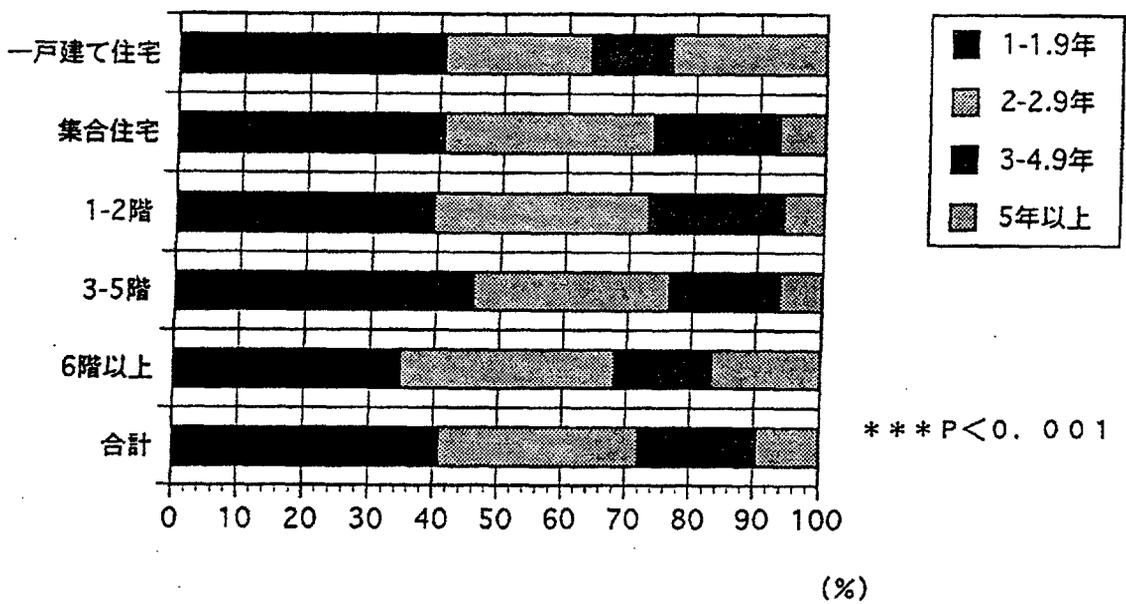


図4 居住形態別居住期間割合

2. 居住形態別流産割合は、居住階の上昇の伴い有意に増加した(図5)。居住形態別割合は、

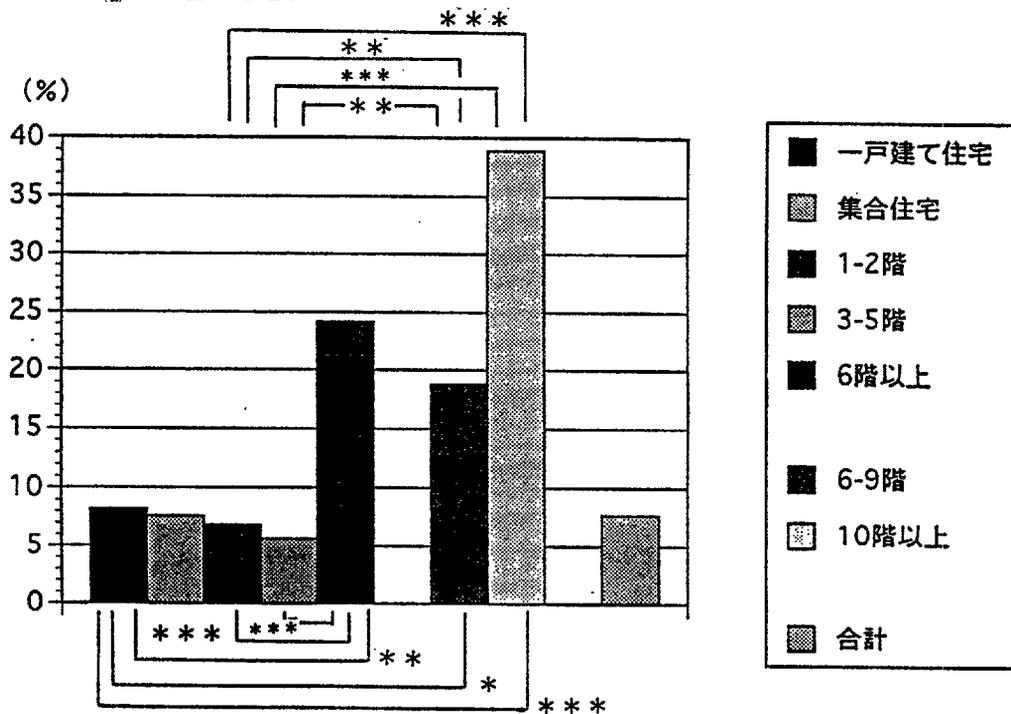


図5 居住年数1年以上および無職の婦人における流産割合

* P < 0.05
 ** P < 0.01
 *** P < 0.001

一戸建て住宅：15.4%、集合住宅の1-2階：51.3%、3-5階：24.1%、6階以上：5.3%（6-9階：4.0%、10階以上：1.3%）であった。

3. 妊婦の結婚年齢は、合計：25.7±3.1歳、一戸建て住宅：26.0±3.5、1-2階：25.4±3.0、3-5階：26.0±3.2、6階以上：25.8±2.7（6-9階：25.9±2.8、10階以上：25.3±2.3）であった。

初回妊娠年齢は、合計：26.9±3.7歳、一戸建て住宅：27.4±3.9、1-2階：26.6±3.5、3-5階：27.2±3.8、6階以上：27.3±4.0（6-9階：27.4±4.0、10階以上：26.9±4.1）であり、集合住宅の1-2階が一戸建て住宅に比べ有意（p<0.05）に低かった。第1子出生年齢は、合計：27.8±3.6歳、一戸建て住宅：28.3±4.1、1-2階：27.3±3.4、3-5階：28.1±3.5、6階以上：29.0±3.4（6-9階：28.9±3.4、10階以上：29.2±3.4）であり、居住階の上昇の伴い有意に増加した。

4. 流産理由は、図6に示す。

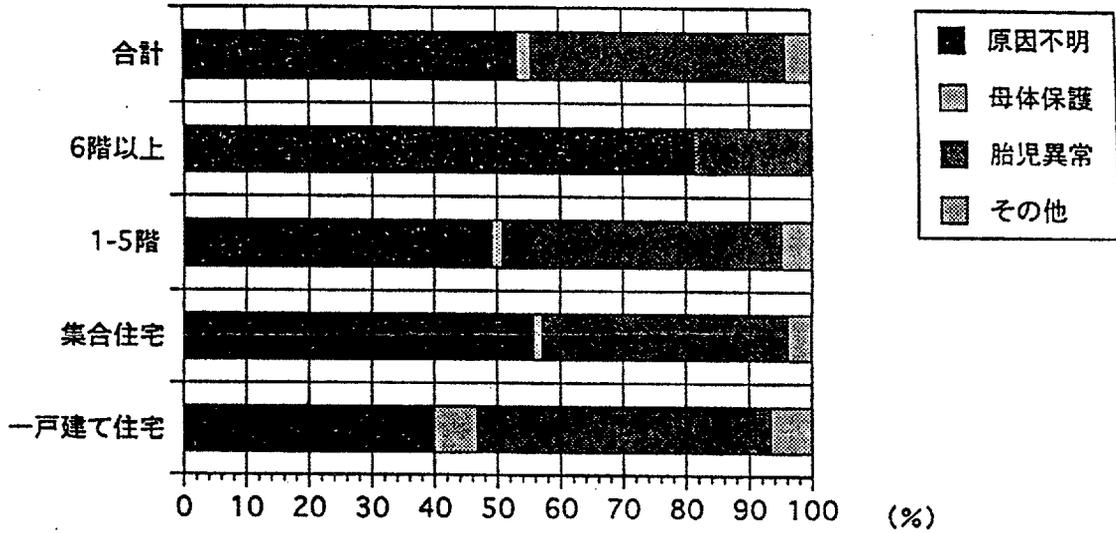


図6 流産理由

5. 初回妊娠年齢別流産割合は、年齢上昇に伴い有意に増加し、6階以上がより顕著であった(図7)。

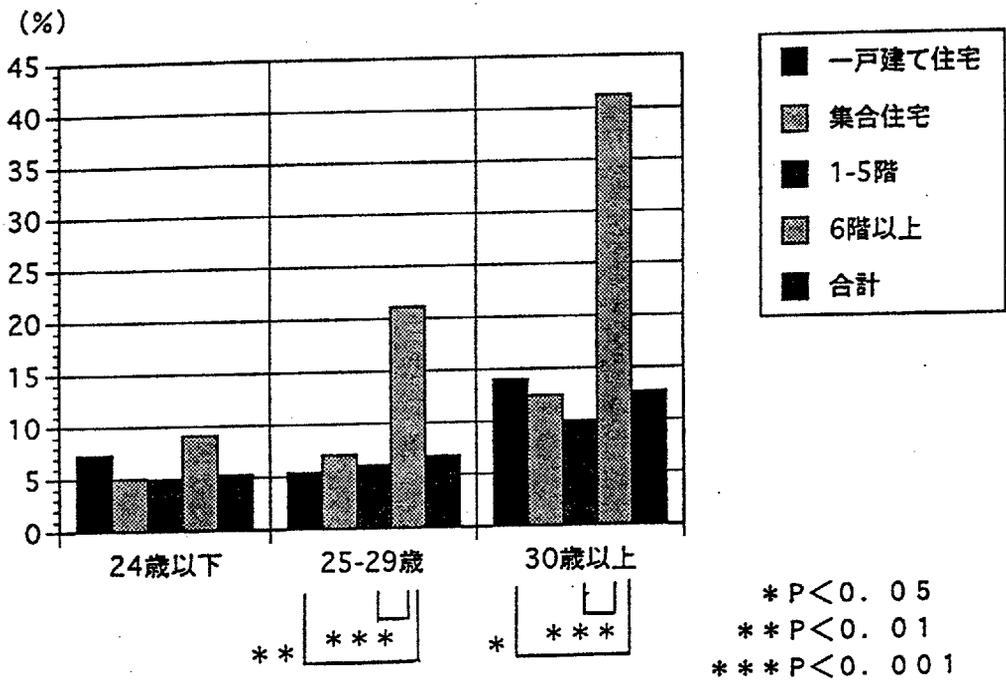


図7 居住形態および初回妊娠年齢別流産割合

年齢別割合は、図8に示す。

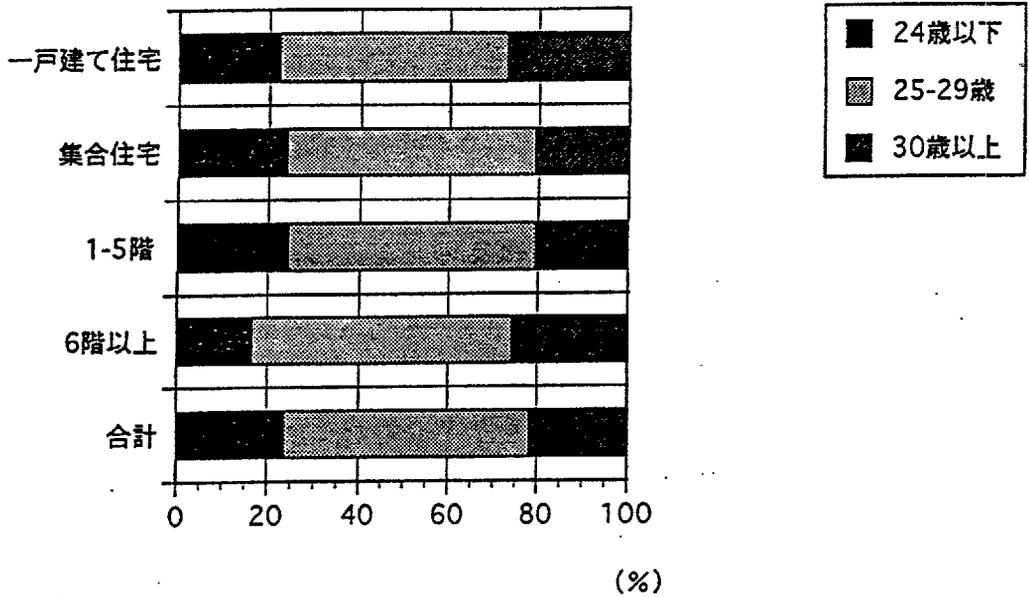


図8 居住形態別初回妊娠年齢割合

6. 妊娠確認前後における妊婦の喫煙習慣、飲酒習慣、配偶者の喫煙習慣別流産割合は、差がみられなかった。妊娠確認前後における妊婦の喫煙習慣、飲酒習慣、配偶者の喫煙習慣割合は、図9-14に示す。また、居住形態別飲酒（週1回以上）割合をみると、10階以上が一戸建て住宅や集合住宅の1-2階に比べ有意に高かった（図15）。

そこで、妊娠確認前の飲酒習慣を2分類（週1回以上飲酒群、非飲酒群）し、居住形態別に流産割合をみると、週1回以上飲酒群および非飲酒群ともに6階以上が有意に高かった（図16）。

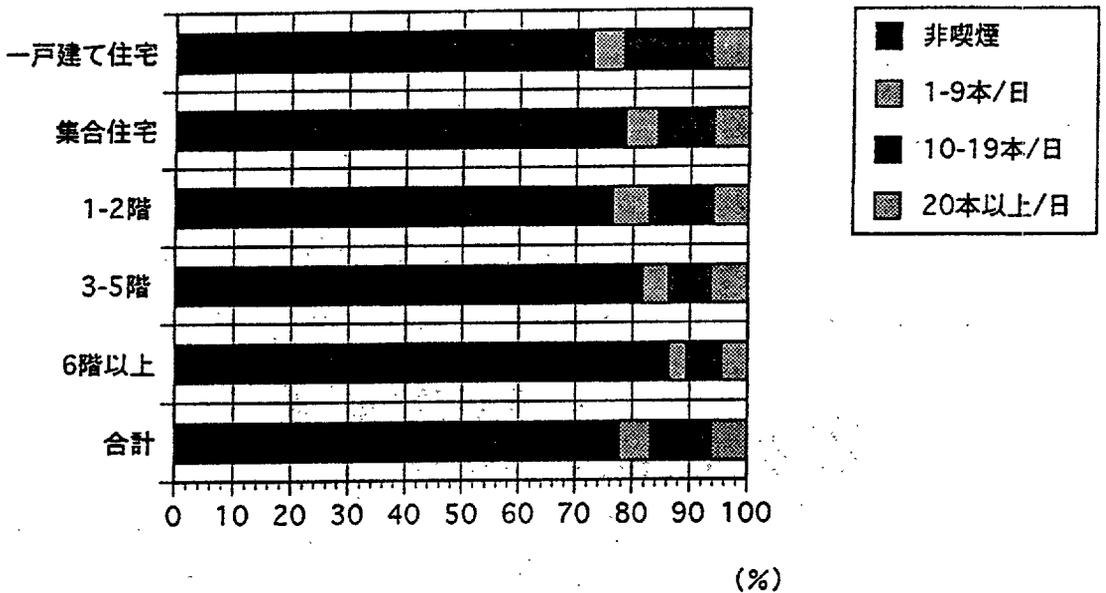


図9 妊婦における妊娠確認前の喫煙割合

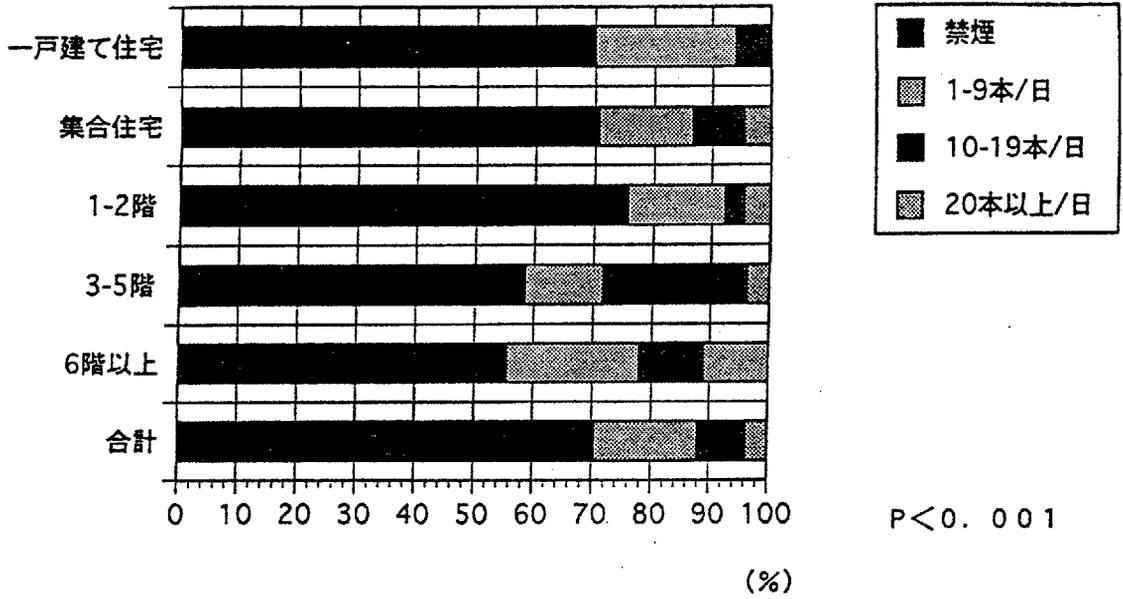


図10 妊婦における妊娠確認後の喫煙割合

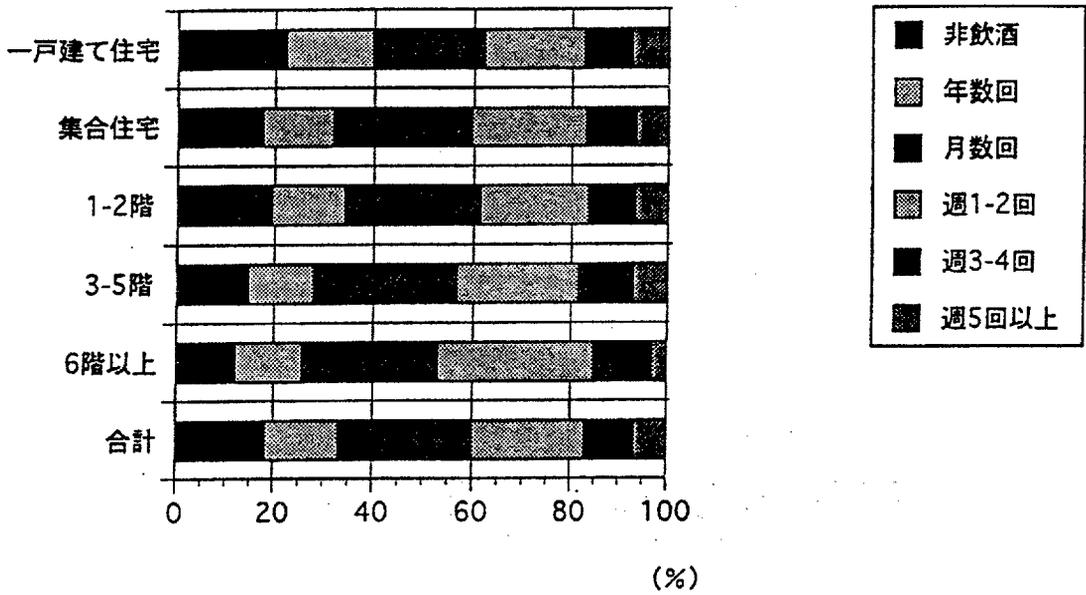


図11 妊婦における妊娠確認前の飲酒割合

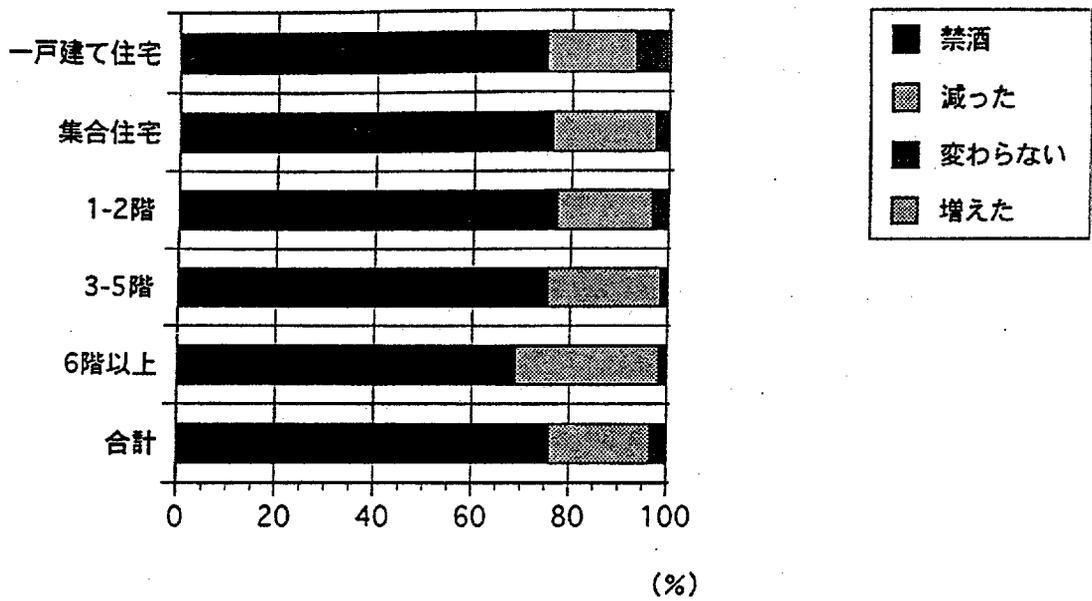
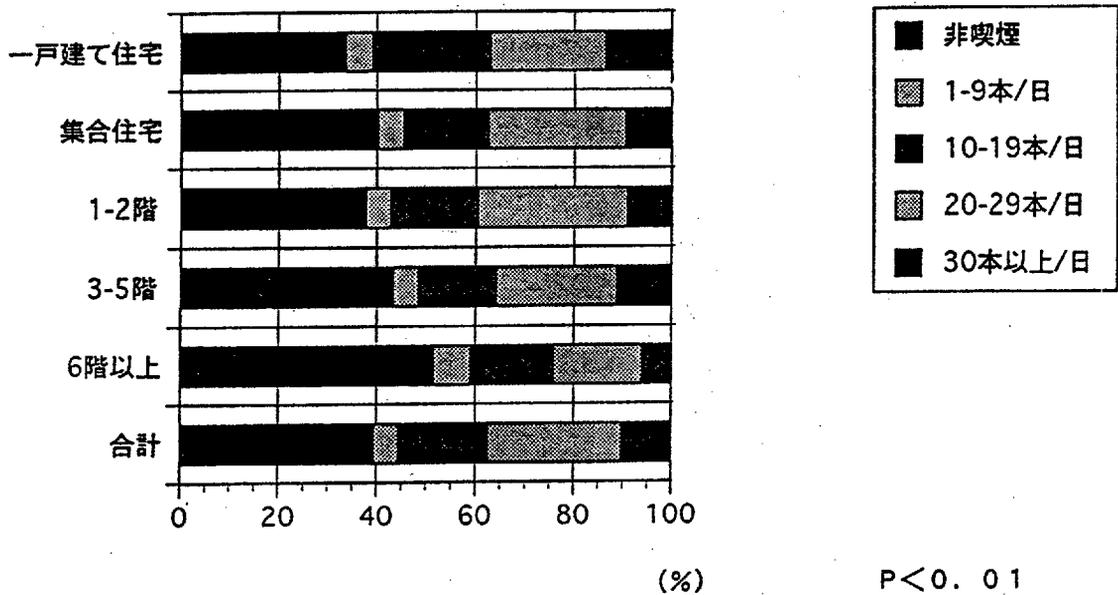


図12 妊婦における妊娠確認後の飲酒割合



P < 0.01

図13 配偶者における妊娠確認前の喫煙割合

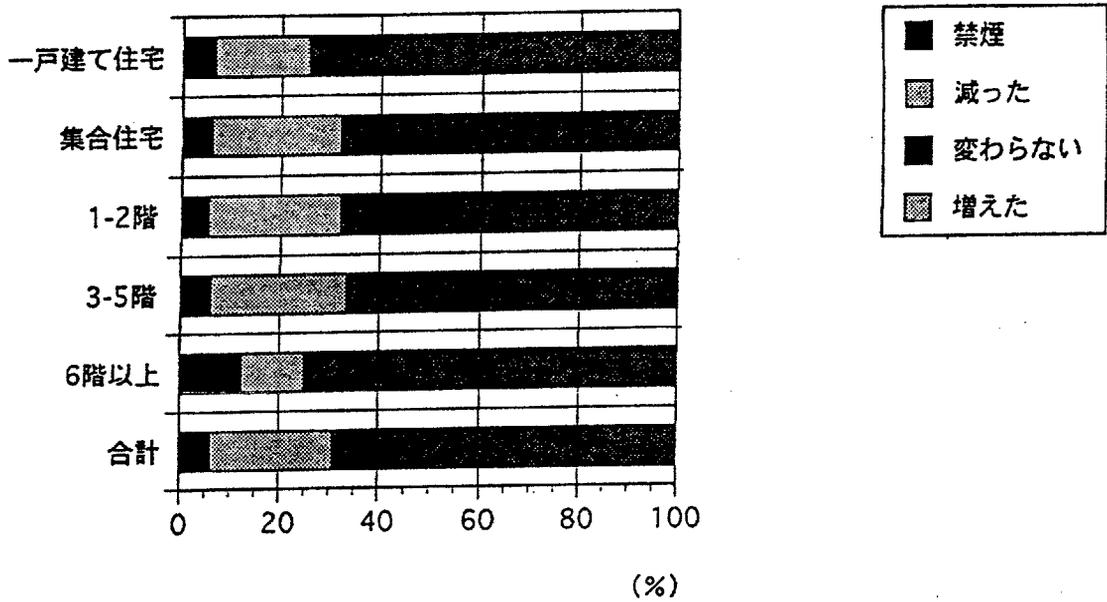
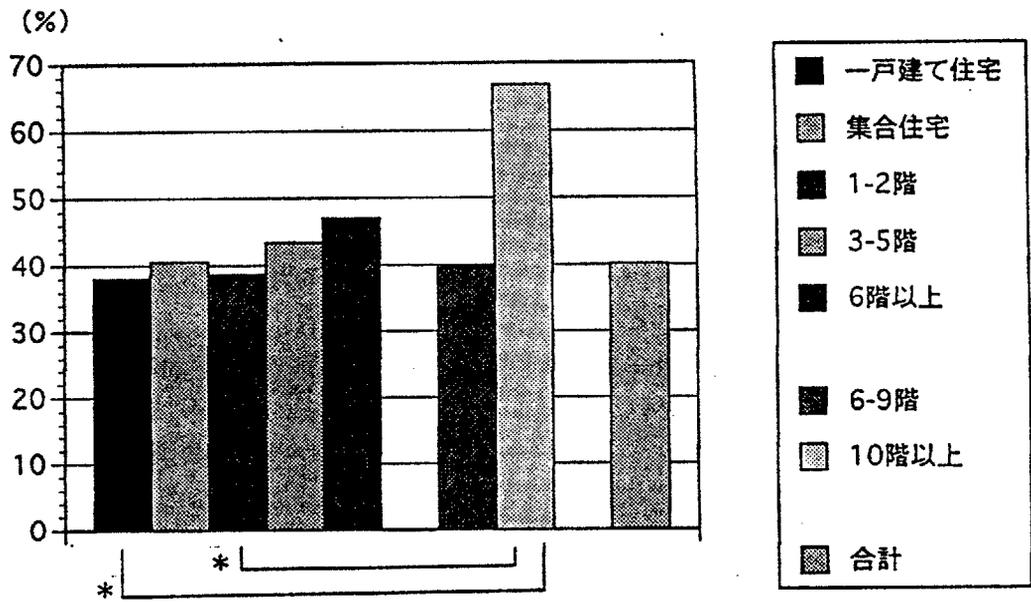


図14 配偶者における妊娠確認後の喫煙割合



* P < 0.05

図15 居住形態別飲酒割合 (週1回以上)

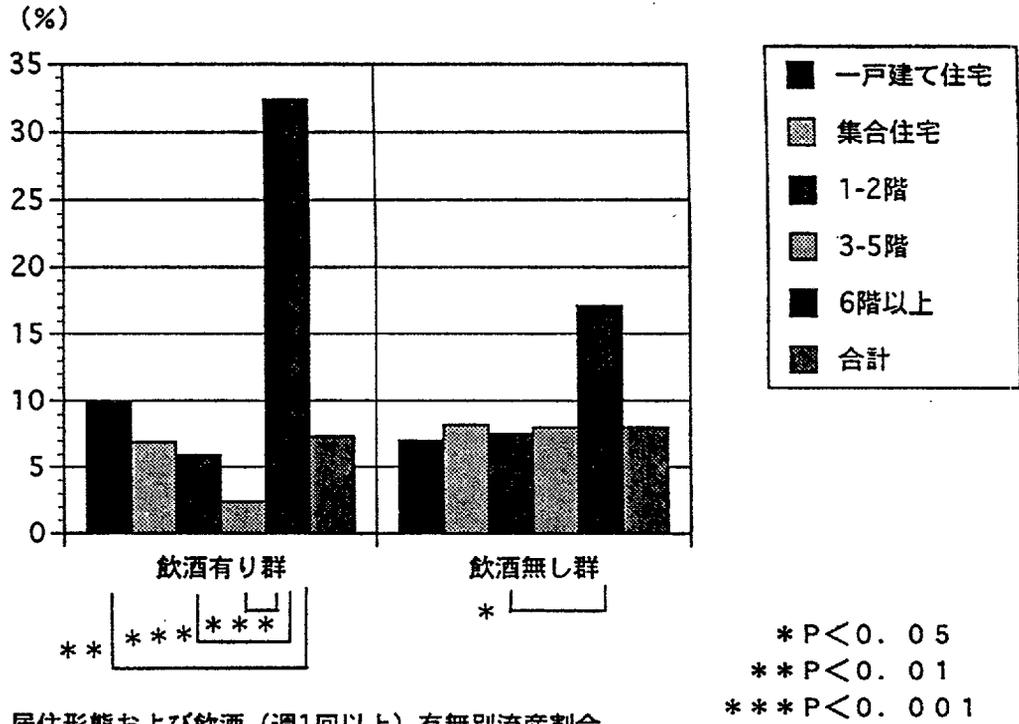


図16 居住形態および飲酒（週1回以上）有無別流産割合

7. 妊婦の相談者別流産割合は、相談者の数が増加するに伴い有意に高かった（図17）。相談者割合は、図18に示す。

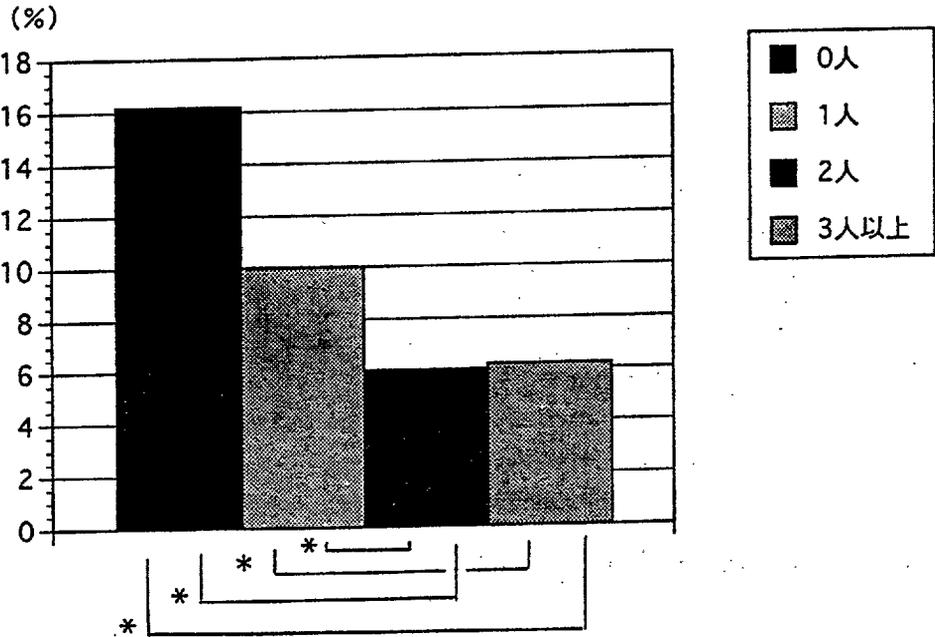


図17 妊婦の相談者数別にみた流産割合

そこで、相談者を2分類（1人以下、2人以上）し、居住形態別に流産割合をみると、1人以下および2人以上ともに6階以上が高かった（図19）

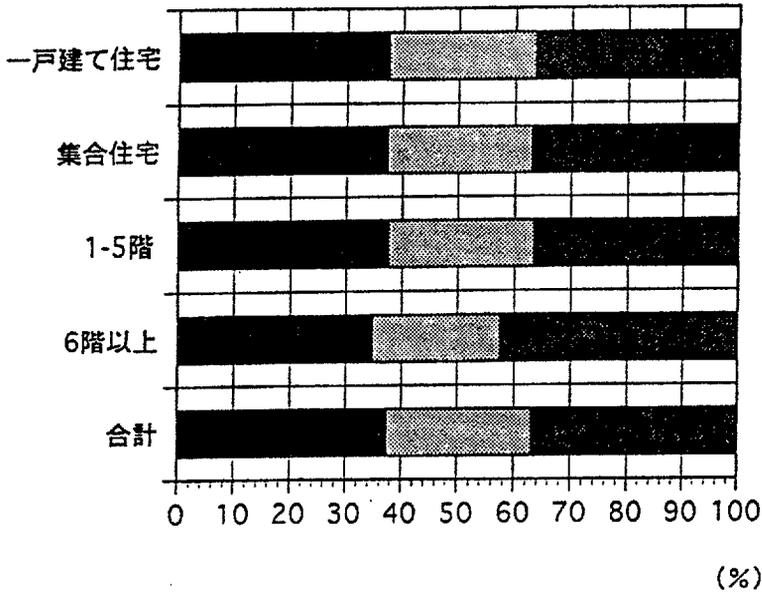


図18 居住形態別相談者割合

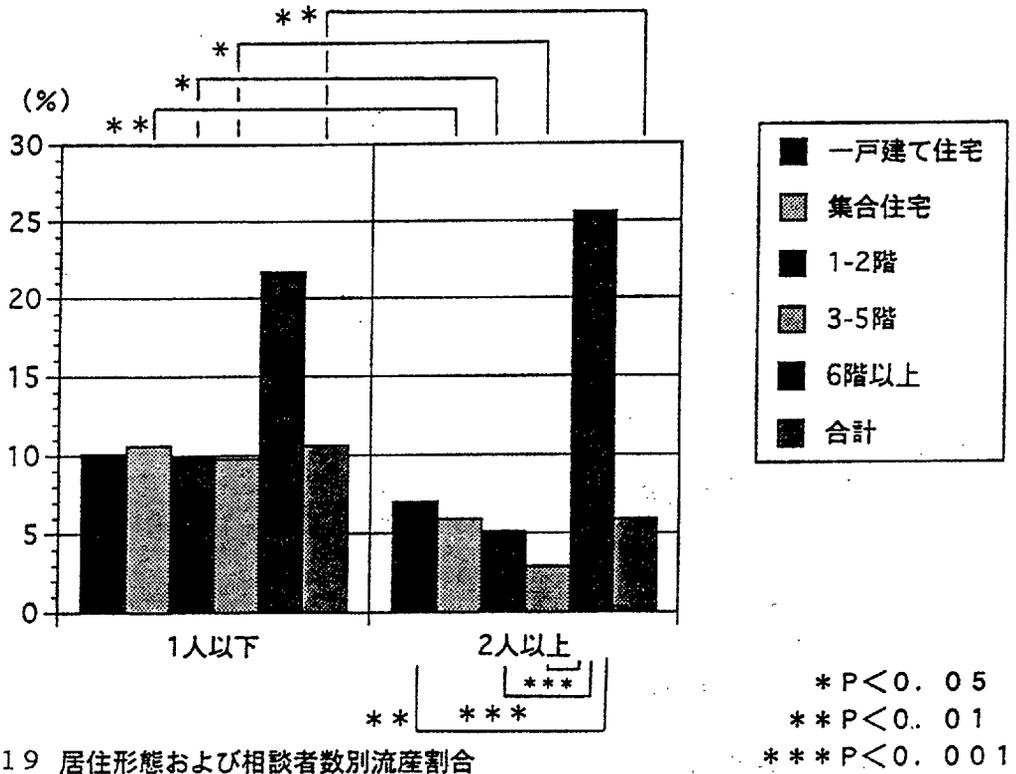


図19 居住形態および相談者数別流産割合

8. 妊娠確認前後の外出回数（1日当たり）別流産割合は、確認前後の外出回数を①数回から1回未満、②数回から1回、③両方とも1回、④両方と

も2回以上に分類してみると、有意に①>②>③>④の順に減少した（図20）。確認前後の外出回数割合は、図21に示す。

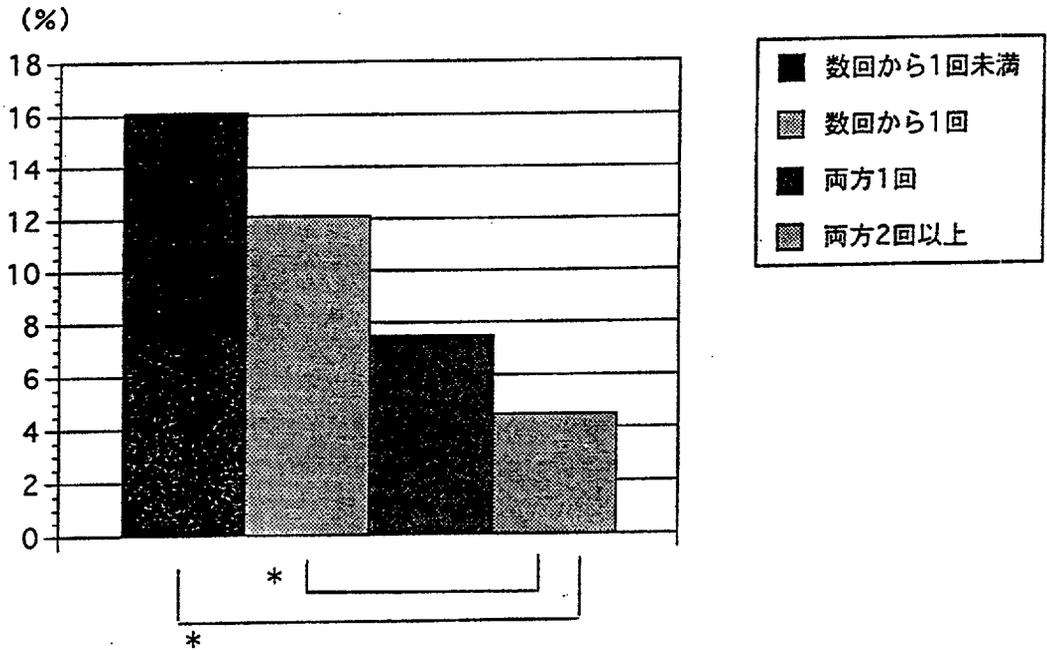


図20 妊娠確認前後の外出回数別流産割合

* P < 0.05

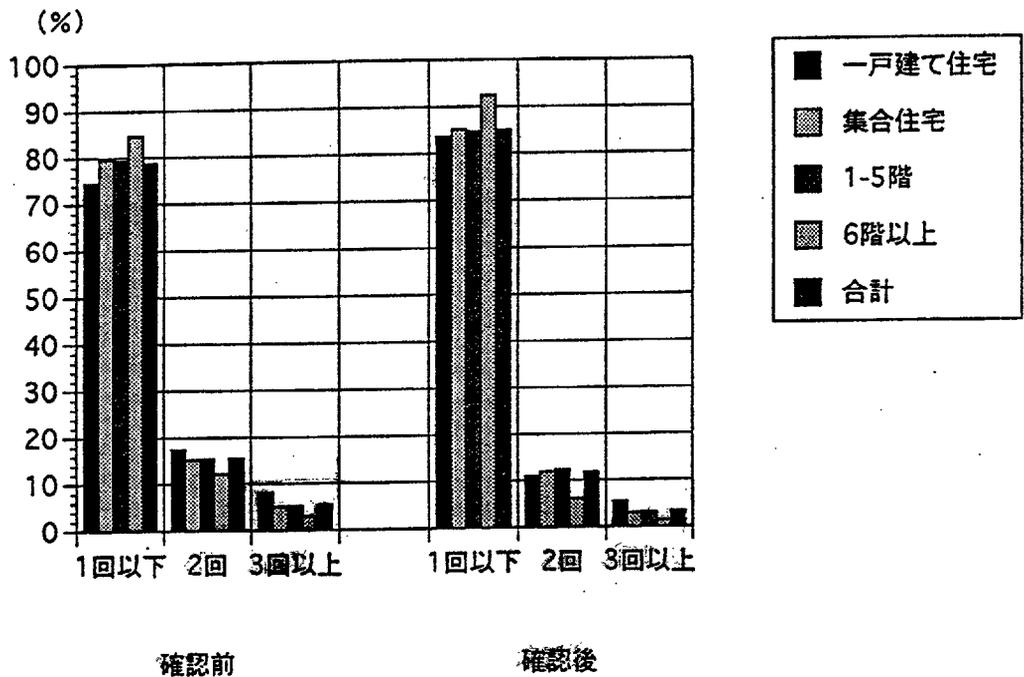


図21 妊娠確認前後の外出回数割合

そこで、確認前における外出回数を2分類（1回以下、2回以上）し、居住形態別に流産割合をみると、1回以下において6階以上が有意に高かった（図22）。

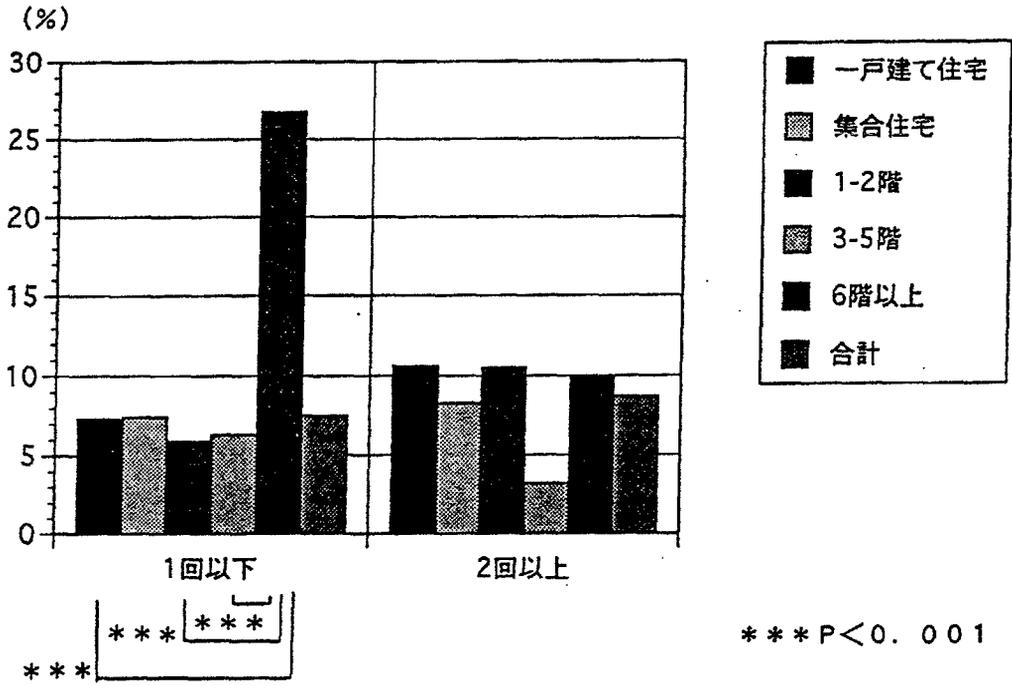


図22 居住形態および妊娠確認前における外出回数別流産割合

9. 1人当りの部屋数別流産割合は、部屋数が増加するに伴い有意に高かった（図23）。1人当りの部屋数割合は、図24に示す。

そこで、1人当りの部屋数を2分類（1.9以下、2.0以上）し、居住形態別に流産割合をみると、2.0以上において6階以上が有意に高かった（図25）。

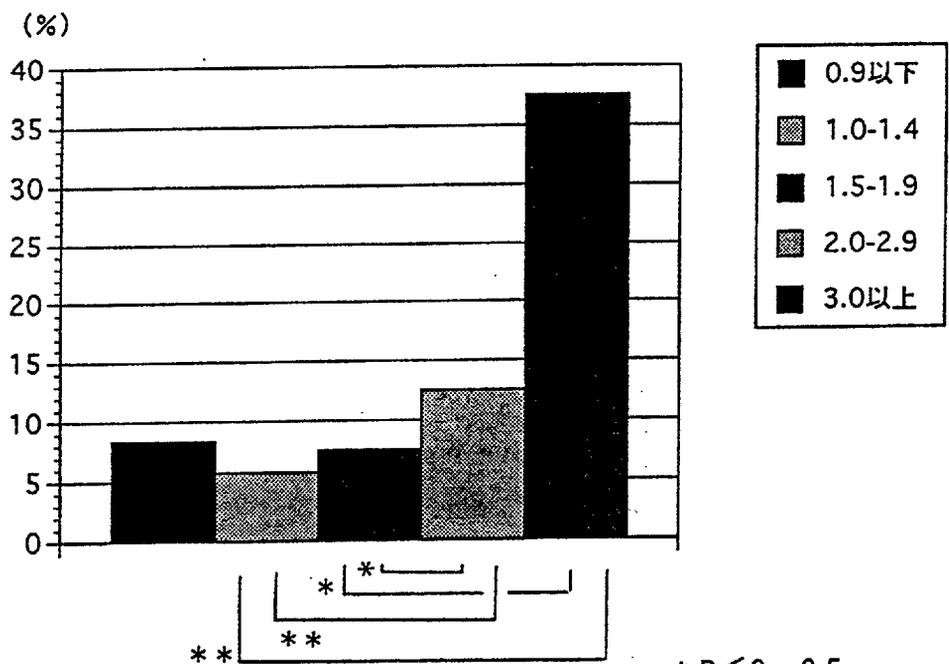


図23 1人当たりの部屋数別にみた流産割合

* P < 0.05
 ** P < 0.01

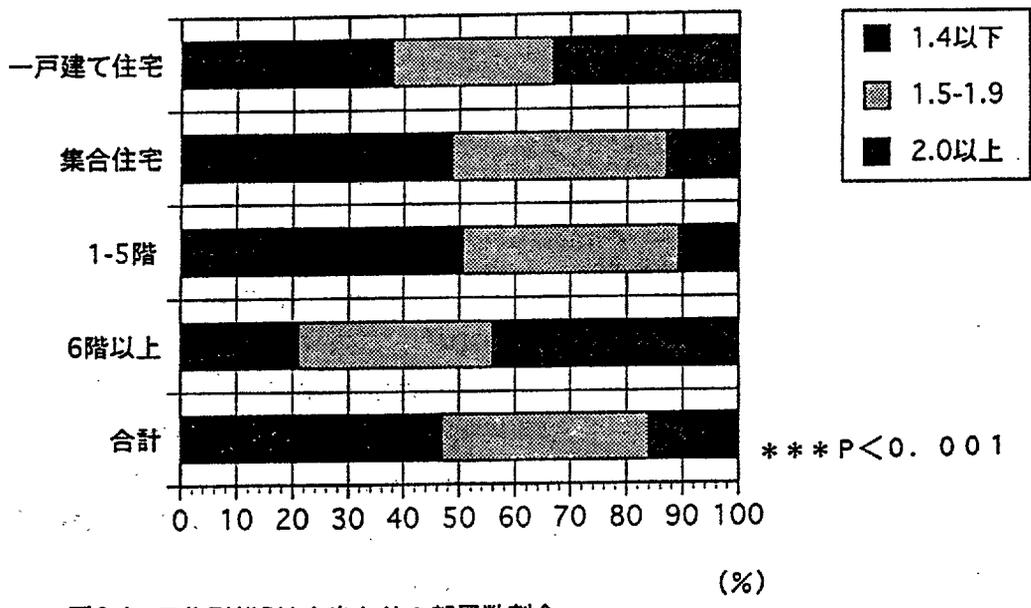


図24 居住形態別1人当たりの部屋数割合

*** P < 0.001

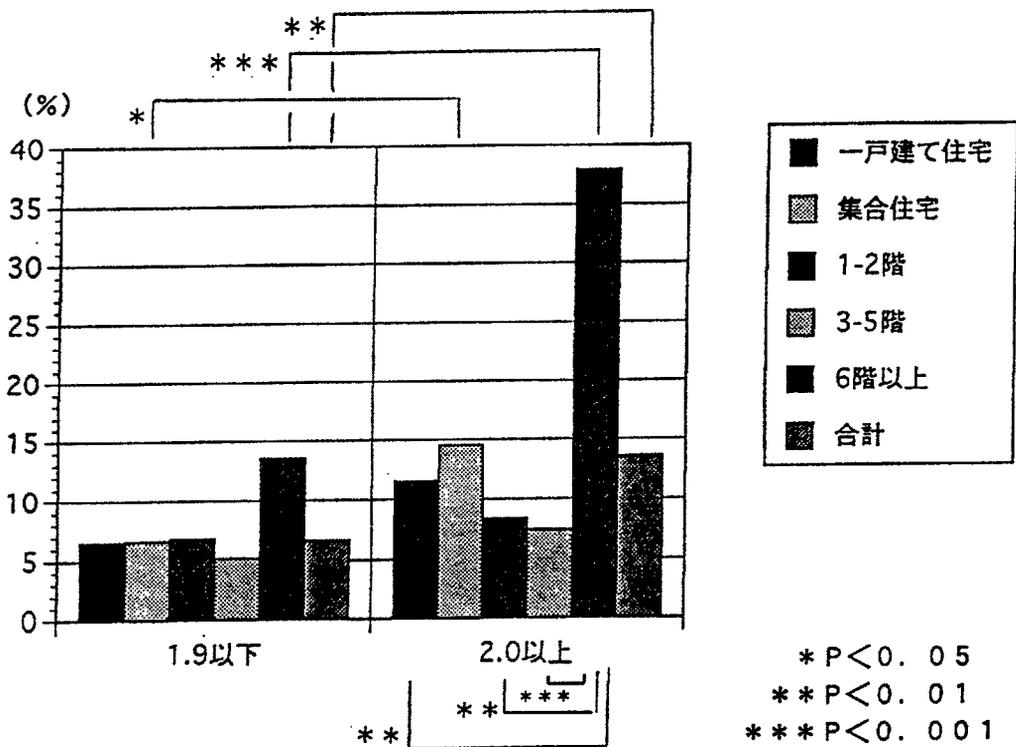
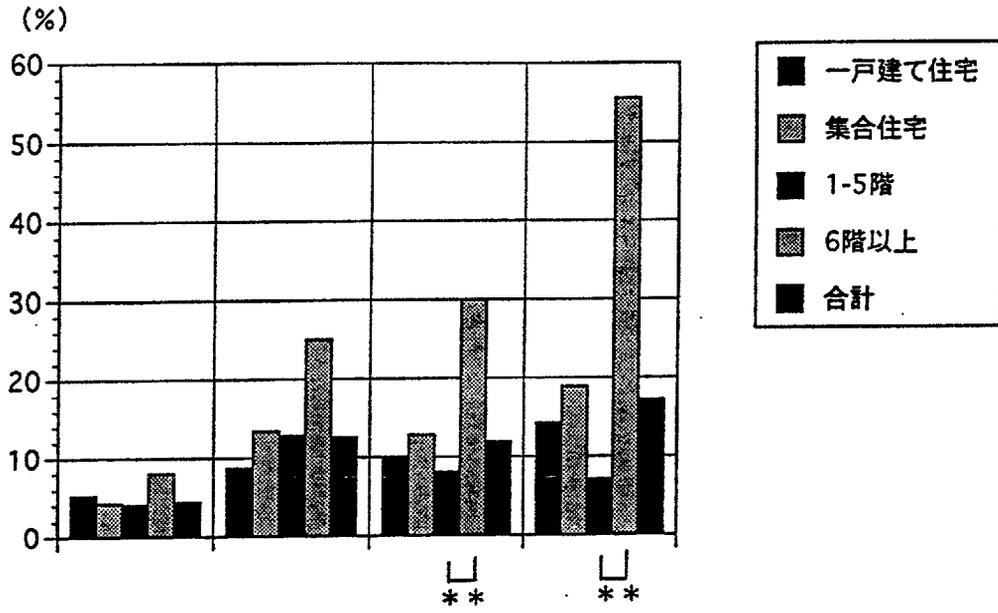


図25 居住形態および1人当たりの部屋数別流産割合

10. 各検討項目の割合において、居住形態別に有意差がみられた居住期間および1人当たりの部屋数別に流産割合をみると、①居住期間1-2.9年・1人当たりの部屋数1.9以下、②3年以上・1.9以下、③1-2.9年・2.0以上、④3年以上・2.0以上の順に高く、特に6階以上が有意に増加した(図26)。



** P < 0.01

1-2.9年・ 3年以上・ 1-2.9年・ 3年以上・
1.9以下 1.9以下 2.0以上 2.0以上

図26 居住期間および1人当たりの部屋数別流産割合

したがって、流産割合は、前年度報告と同様に、居住階の上昇に伴い、より顕著な増加を示した。さらに、本年度は、居住期間、初回妊娠年齢、外出回数、相談者、1人当たりの部屋数などの交絡因子の影響が認められた。しかし、影響因子と推測していた喫煙および飲酒の要因では、現在のところ明らかな影響はみられなかった。

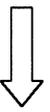
今後も、高層階居住の割合は、増加の一途を辿っており、上記の因子以外に、その影響を助長している原因探究は、今後の重要な課題点である。よって、次年度は、平成6年度の成績を基に妊婦の妊娠確認前後の性格を中心に検討する方針である。

さらに、高層集合住宅に居住している人々に対する啓蒙活動の必要性は、今までとは違う住環境であることを常に自覚し、生活すべきであり、隣人同士の井戸端会議を積極的に行い、かつまた外に出ることの重要性を認識させることが大切である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:流産割合を、各交絡因子(出産状況、居住期間、居住形態、結婚年齢、初回妊娠年齢、第一子出生年齢、妊娠確認前後における妊婦の喫煙および飲酒習慣や配偶者の喫煙習慣、外出回数、相談者、1人当りの部屋数)において検討した。その結果、居住階の上昇に伴い流産割合が、一戸建て住宅:8.2%、集合住宅:7.6%、集合住宅の1-2階:6.8%、3-5階:5.6%、6階以上:24.2%(6-9階:18.8%、10階以上:38.9%)、合計:7.7%であり、前報告に比べ、より顕著な値を示した。さらに、各交絡因子の影響も認められた。